

「名東図書館どくしょ会」 第2回 結果レポート

平成26年2月22日（土）10：30－12：00 名東図書館集会室

参加者 6名（一般）

進行 1名（名東図書館）

テーマ本 『銀河鉄道の夜』 宮沢賢治/著

《あらすじ》

貧乏で孤独な少年ジョバンニは、父親は不在で病気の母親と暮らしている。クラスからは父親のことで心無い言葉を浴びせられ、親友カンパネルラもいまひとつの反応である。今日は、星祭りの日でみなが、烏瓜の明かりを川に流しに行く。ジョバンニには皆から離れ、天気輪の柱にいくといつのまにか銀河鉄道の乗客になっている。そこで、カンパネルラや、鳥打ち、灯台守、家庭教師とその教え子、発掘する人たちやいろんな人と一緒に美しい銀河を鉄道で旅をする。

司：では、お一人ずつ、お名前とちょっとした感想、テーマ本を5点満点で点数づけしてください。

か：学校でよく紹介されたが、今回初めて読破。かなり構成がむづかしく、ファンタジーの原点かと思った。小説のサクラダファミリアかなと。面白くて 5点。

み：名前だけ知ってて読んだことはない。読むのに気力がいった。理解できず、なんなんだろう、どこへもっていくのかと思った。 3点。

加：こういった機会がないと読まない本。名ばかりが有名で、子どもは受験で読んだ。イメージが浮かばない。途中から夢の話だと思った。幽霊列車、三途の川の話かとも思った。わからない話だった。 2. 5点。

真：読んだことがあるが、賢治に魅力を感じない。「ゼロ弾きのゴーシュ」がまあまあ。絵をかく人には魅力があるだろうが、活字として魅力ない。カンパネルラたちの登場人物は、一人の人間としての魅力が描けていない。未完成だと思う。 2点。

松：初めて読んだ。震災後に読んだ人が多いらしい。難しかった。ジュバンニにも心が入らない。 3点。

い：文章よんでも情景が浮かばない。未完成の本だ。賢治はりっぱな家に生まれたことの負い目があったようだ。意味がよくわからない本だった。 2点

イ：想像力がすごいなあ、鳥を取る人のイメージもすごい。どこから生まれたのか。絵をかきながら読まないといわからなかった。初めて読んだが、すごいと思った。 5点。

- ：セロを弾いたり、フランス語ができたりして、異国情緒にあふれている。
- ：方程式を解く感じが面白い。情景のつながりがおもしろい。読んで達成感がある。
- ：しかけが多い、賢治本人はわかっているのだが・・・読者にはなかなか、わかりづらい。
- ：参加型作品だと思う。自分の思い読むというか。
- ：未完成の作品ときいて、納得できた。
- ：新世界がでてくるが、ドボルザークもSLマニアだったらしい。賢治もそのことを知っていたのだろう。
- ：賢治の本は音で聴くといい。活字でよむより、耳で聞くと、とても美しく、心に響く。『双子の星』の朗読をきいたらよかった。
- ：一つの作品だけを読むとわからないが、全部読むと、なんとなく世界がわかる。
- ：わかったときに世界が完成して、よりわかる。
- ：“桔梗色の空”って、何の色の空だ？とかんがえてしまう。
- ：藤城清二のかげ絵の本は、賢治の作品とマッチする。ファンタジックな要素と透明感。
- ：鳥がひとつのおおきなポイントかと思う。モーツアルトの「摩笛」に鳥刺しがでてくる。鳥をとって食べることがふつうのこと。
- ：鳥をとってたべていた時代のことかな。鳥の足をチョコレートのように食べている。
- ：10年ほど前、猪高にもキジがいて、私は写真にとったが、駆逐の対象としている人がいて驚いた。
- ：キジは食べ物と、私は思ってきた。鳥は食べ物であったと思う。
- ：鳥の足がチョコレートとなる、そういう方法の世界、今のファンタジーの原点の気がする。
- ：最初の授業の風景に感心した。自分の小さいころを思い出した。先生の対応とか、友達

への気持ちはこんな風だったと思う。唯一、リアルで共感できた場面だ。

○：角砂糖をわざわざ買って食べるとか、トマトを食べるとか、当時としては、金持ち趣味で、ハイカラ。知っていることのひけらかしがあって、鼻につくが、そこが、賢治のかわいいとことと思う。

○：レコードの新譜がでると、すぐに東京に注文して取り寄せていたらしい。そういう注文主が東北にいと、レコード屋で話題だったと聞いた。

○：カンパネルラの母親は死んでいるのかどうかよくわからなかった。

○：死んでいると思う。そうでなければ、最後の場面で父親と一緒に登場するだろう。いないから、出てこないのだと思う。

○：すると、ジャバンニの「きみのお母さんはなんにもわるいことないじゃないか」のセリフの意味がわからないなあ。

○：なんで、カンパネルラを川で溺れさせたんだろう、そんな必要があるのだろうか。何が書きたかったんだろう。

○：この人は、銀河鉄道の夜が書きたかったんだと思う。銀河の中を鉄道が走るというのはすごい発想。それを作品にしたのは、すごいと思う。

○：日本人は空とか星とかに、あまり関心はない。それより雪とか雨とかふってくるものに、心をよせてきた。賢治はそうではなく、空や星に強い関心をもっている。

○：日本は海洋民族でないので、航海術が発達しなかった。だから、星をみなかった。

○：日本は農耕民族だから、月なんかには、暦の関係ですごく関心がたかいと思う。

○：やっぱり、西洋の影響が強い。従来の枠をこえて、賢治はぶっとんだ感じがする。

○：文学の力をかりて、遊んでいる感じがする。楽しそうだ。

○：賢治は文学で身を立てたかったと思う。父親から離れて、本当は文学や、音楽や、劇やいろんなことをやりたかったんだろう。

○：サネリは男の子でしょうか。

○：男子でしょうね。女の子っぽい、いじめ方、ものの言い方するけど。

○：この本の場所はどこでしょう？

○：岩手がどうかはどこでもいい。世界のどこか。ただ、寒くて冷たいところの感じ。

○：いや、やはり岩手でしょう。岩手の自然がないと生まれなかった作品と思う。

○：ただ、賢治の世界は西洋かぶれ、あたりし物かぶれの気がする。

○：どうしてカンパネルラは最後までジョバンニと一緒にだったのか。途中で降りずに。

○：降りるところが皆違う。サザンクロスは、キリストの世界だから、カンパネルラはおらなかったのでは。

○：鳥を殺生する人はおりたりのったりしている。カンパネルラは急にいなくなる。わからない。

○：カンパネルラの父親は冷たい人だと思う。45分たったから、息子は生きていないと冷静に言うことができるので、びっくりした。

○：いや、冷静だけど、「あしたあそびにきてください」というのはいっぱいいい感じかして、気丈にふるまっているという感じがする。賢治は理想の父親として描いたのではないか。

○：時計を握りしめているという描写があるから、お父さんは、やっぱり悲しみを時計をにぎることでまぎらわしているのだろうか。

○：銀河鉄道の×の人として、描いたのではないか。黒い帽子の博士は、この章を付け加えた最終稿には、登場しない。黒い博士のかわりにこの父親が×にいると思う。

○：最後に、銀河鉄道から降りて、ジョバンニは現実にもどったんだな。

なかなか、全体の構成がわかりづらく、何がしたいのかわからない場面も多く、とまどうことの多い作品だったようです。それでも、賢治の表現の斬新さや、あの時代にこんなファンタジーを考えていたことにたいして、皆が驚きを感じた作品でした。